

## 八日市おかえり食堂

### 1. 団体概要

- ・「ママ友」4人が声をかけあって設立した任意団体「おてんとさん」が運営している子供食堂
  - ・開催場所；八日市大通り商店街が運営する文化交流施設「太子ホール」
  - ・開催日時；月1回
  - ・参加費；子供 無料、大人 300円
  - ・参加者；40人前後（うち子供25人前後）
  - ・「出張子ども食堂」と称して、東近江市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）が中・高校生を対象に学習支援を実施している会場3か所に、それぞれ月1回ずつ食事を提供している。
  - ・滋賀県社会福祉協議会事務局を担う滋賀の縁創造実践センターの「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業※に採択され、立上げ・運営に同センターのバックアップを受けています。
- ※（⇒ 詳細は「◎連携事例1：滋賀の縁創造実践センターの協力による、子供食堂の立上げ支援」）

### 2. 取組のきっかけ

- ・おてんとさん代表の菅谷氏は、以前、主婦の方が運営する子供食堂を紹介するテレビ番組を見て、子供が大きくなったらいずれ自分も同じようなことがしたいという想いを抱いていました。
- ・すぐに子供食堂に取り組むことは考えていませんでしたが、縁センターが「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業により立上げ支援や資金面での援助等、全面的なバックアップを行っていることをたまたまSNSで知り、「それならば今でもできるのではないか」と考え、開設準備に取りかかりました。
- ・最初は市社協に相談しましたが、ボランティア等の活動実績もなく、理解してもらいにくかったため、滋賀県社会福祉協議会（以下、「県社協」という。）に設置されている縁センター事務局に、子供食堂の開設について相談しました。
- ・モデル事業採択には、継続性の担保が必要なため、個人ではなく任意団体・グループを作り、モデル事業採択の推薦をもらえるよう市社協に相談するようアドバイスを受けました。
- ・そこで、子供食堂の取組に興味をもってくれそうな「ママ友」に声をかけたところ、3人の友人が賛同してくれ、任意団体「おてんとさん」を立ち上げました。
- ・立上げ後、縁センター事務局から市社協の担当者につないでもらい、モデル事業採択推薦を依頼し、推薦を受けました。
- ・並行して、縁センター事務局に事業計画の立て方、モデル事業の申請書の書き方、その他開設に当たって必要な準備について相談しや指導を仰ぎ、申請を提出し、平成28年度モデル事業に採択され、オープンすることができました。

<おかえり食堂の活動の様子>



### 3. 食育の取組

#### ①多様な暮らしに対応した食育の推進

- ・子供の居場所となり、言葉に出せないことでも内に秘めていることがある子供が来てくれるような場の一つになりたいとの想いで運営しています。

#### 4. 地域との連携等による課題解決

##### (1) 来てほしい人や家庭の参加（主要課題①）

- ・無理に広く周知することはせず、対象を限定して広報しています主な協力先は、地域の小学校 2 校、中学校、学童保育 2 か所、市立保育所、市社協で、ポスターを掲示していただいています。
- ・学童保育や保育所は、共働き家庭や父子家庭、母子家庭の子供が通っていることから、中には貧困等の課題がある家庭の子供や、孤食の子供がいるのではと考えてポスター掲載の協力を求めました。学童保育には、利用児童全員にチラシ配布の協力をいただいています。小学校や中学校には、スムーズに協力が得られるよう、学校を訪問して校長に直接協力を打診しました。
- ・また、民生委員の方々に、チラシ配布の協力を得ています。東近江市では、民生委員がこんにちは赤ちゃん事業として新生児がいる家庭を全戸訪問しているため 1 歳から小学校 1 年生までの子供を育てているおてんとさんのメンバーは、この全戸訪問をきっかけに民生委員の中に相談できる人ができました。実績がない中で最初から組織的な協力は得られにくいと考え、まずは知り合いの民生委員に協力依頼をして、個人的に気になる家庭や子供に案内してもらいました。開催を重ねていく中で、少しずつ信頼が得られるようになり、現在は民生委員の組織として協力を受けて、すべての民生委員が様々な家庭や子供に子供食堂の案内をしてくださっています。
- ・学童保育は、告知だけでなく、土曜保育に参加している子供たちに子供食堂への参加希望を募って、希望者を引率して来てくださっています。

##### (2) 資金の確保（主要課題②）

###### ■ 運営費の寄付

- ・現在はモデル事業の助成金が主な運営資金源となっています。
- ・来年度までは助成金が受け取れますが、助成終了以降の継続的な実施に向けて、活動資金確保のため、今年度からは他の助成金等への応募により新たな資金源の確保を目指してきました。今年度は、八日市南ロータリークラブが行っている「グリーンふくろう基金」や赤い羽根共同募金助成事業からも助成を受けています。
- ・助成金の申請は申請書類の作成負担が大きいものや手続きが煩雑な助成金等は避け、自分たちで対応できるものを探して応募・申請しています。この点においても「無理しない」という鉄則を守っています。
- ・この他、今年度からは、県社協が実施する「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」の寄付金からも資金援助を受けています。（⇒ 詳細は「◎連携事例 1：滋賀の縁創造実践センターの協力による、子供食堂の立上げ支援」）

###### ■ 食材の提供

- ・食堂開設当初は、米、肉、野菜、調味料等、必要な食材や消耗品のすべてを購入していました。
- ・しかし、開設してから、地元の新聞で取り上げてもらったことや口コミで情報が広まったことで食材の寄付が少しずつ寄せられるようになりました。野菜は家庭菜園をやっている地域住民の方が毎回開催の

数日前にたくさん送ってくださったり、その他の方からもたびたび寄付をいただいています。

- ・米は、昨年の秋から、生産者より毎年 1 年間使えるだけのお米を提供していただけるようになりました。直売を行っている生産者から毎年秋に販売がしにくくなる前年産米をまとめて寄付いただけるというサイクルができました。縁センターに寄付されるお米もあり、縁センターから各子供食堂に配分いただいています。
- ・これらの支援を受けているため、今購入しているものは、肉や調味料、消耗品程度です。

### (3) スタッフの負担、スタッフの確保 (主要課題③)

- ・設立メンバー4人で切り盛りしています。
- ・当日の運営支援として、地域の方々、学生等にボランティア参加していただいています。ボランティアへの誘いはせず、自ら手伝いたいという申出の方に限り御手伝いをしていただいています。負担感が生まれないよう、ボランティア登録、事前出欠等は求めず、気が向いた時に、気が向いた時間だけ手伝ってもらうようにしています。
- ・市社協が開催している学習支援に参加している高校生にも、おかえり食堂の案内をし、食べたり遊びに来るだけでも歓迎していますが、ボランティアとして手伝ってくれる高校生も出てきており、好循環ができてきています。
- ・続けられることを重視しており、そのために「無理をしない、頑張り過ぎない、苦手なことをやらない」ことを意識しています。難しい料理やいろんな料理に挑戦するのではなく、メニューは、どんな食材をいただいても活用しやすく、作りやすい、何より子供たちも喜んでくれるカレーや豚汁、おにぎり等限られたメニューに留め、副菜に関しては、寄付野菜や作る時間等、余裕がある時に、やれる人が作っています。

#### <食事のサンプル>



### (4) 地域との連携 (主要課題④)

- ・縁センターの開設後の研修会への参加、個別相談対応等の様々なサポートを受けています。市社協の方が毎月ほど食堂に顔を出してくれる等、常にそばにいて支えてくれています。(⇒ 詳細は「◎連携事例1：滋賀の縁創造実践センターの協力による、子供食堂の立上げ支援」)

#### (5) リスク管理（主要課題⑤）

- ・現在会場として利用している太子ホールには喫茶スペースがあり、ホールとして食品衛生責任者がいるため、安心して開設することができました。
- ・また代表の菅谷氏とスタッフの1名も食品衛生責任者の講習会に参加し、同責任者の資格を取得しました。調理に当たって手洗い・マスクをする、食品は加熱したものを提供する、おにぎりを握るときには手袋をすること等を徹底しています。
- ・アレルギー対応食の提供はしていないため、アレルギーがある子供への対応については、告知チラシのなかで、「アレルギーのある方はまずはお問い合わせください」という文言を記載しておき、申出てもらっています。また、お弁当持参で参加することも可としているので、アレルギーのある子供等はお弁当を持ってきてもらい、みんなと一緒にご飯を食べたり、遊んだりする場として参加してもらっています。

#### (6) 会場の確保（主要課題⑥）

- ・開設当初は団体としての活動実績がないことから、公共施設の利用許可を得ることが難しく、会場探しは非常に難航しました。
- ・現在会場として利用している太子ホールは八日市大通り商店街が運営する民間施設であることから、施設は立派であるものの、使用料が高額であることや十分な調理施設がないことがネックとなり、候補には入っていませんでした。
- ・しかし、代表の菅谷氏が以前から開催している不用品の無料交換会を、現在会場として使用している太子ホールを借りて実施していた経緯から、ホール側から子供食堂の会場として使ってもかまわないという申出をいただきました。
- ・会場使用料については、通常1時間当たり1,000円の料金を、1日2,000円で利用させていただいています。
- ・太子ホールには十分な調理施設がないといった点については、下ごしらえをメンバーがそれぞれの家で準備をして、会場に持ち寄り、会場ではご飯を炊いたり、煮込んで仕上げをするだけにし、副菜を作る場合には、各自が家で作って持ち込む等、会場における調理作業が最小限限度になるよう工夫しています。手間はかかるが、会場費が安いので、こうした負担をかける価値はあると考えています。

### 5. 八日市子ども食堂が必要としている支援

- ・行政には、組織として子供食堂の活動を知ってもらいたいと考えています。現場を見に来てくれたり、理解のある行政職員の方は残念ながら多くはいません。組織としてはまだ子供食堂を認知していないと感じられることがあります。食堂はもちろん、縁センターが行っている開設準備講座や実践者向けの研修会も是非見に来ていただきたいと考えています。